資料１

令和6年度 伊勢志摩国立公園地域協議会

「伊勢志摩国立公園ビジョン」の検討・作成について

伊勢志摩国立公園

コンセプト:**悠久の歴史を刻む伊勢神宮　人々の営みと自然が織りなす里山里海**

目指す将来像:至る所に存在する人と自然の結び目に触れられる
人々が寄せては返す波のように訪れる国立公園

（伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2025より）

令和6年8月

もくじ

①国立公園とは？
　伊勢志摩国立公園の特徴

②伊勢志摩国立公園地域協議会とは？

③国立公園ビジョン検討・作成について
　1)進め方（案）
　2)アンケート調査の内容（案）

国立公園とは？
伊勢志摩国立の特徴

国立公園とは？

日本の国立公園の定義

（自然公園法第２条）国立公園の定義：

我が国の風景を代表するに足りる
傑出した自然の風景地

（自然公園法第１条）目的：

優れた自然の風景地を保護するとととともに、
その利用の増進を図ることにより、
国民の保健、休養及び教化に資するとともに、
生物の多様性の確保に寄与する。

- 国立公園の制度は昭和６（1931）年から
- 現在**３５ヶ所**を指定
- 伊勢志摩国立公園は、昭和21（1946）年11月20日に指定。

伊勢志摩国立公園の特徴

- 英虞湾や五カ所湾のリアス海岸、内陸部の常緑広葉樹など、美しい自然景観
- 真珠、カキ等の養殖、海女漁、伊勢神宮などの人文景観
- 神宮参拝、海洋レジャー、海産物等の味覚探訪の利用、エコツーリズム活動
- ９６％が私有地

自然と人の営みの融合が最大の特徴

【コンセプト】
悠久の歴史を刻む伊勢神宮
人々の営みと自然が織り成す里山里海

伊勢志摩国立公園の特徴

伊勢市

伊勢神宮を中心とし、宮域林の森林景観と、二見浦の海浜景観が特徴で、利用の中心は伊勢神宮の参拝である。

鳥羽市

鳥羽湾の海岸を中心とし、朝熊山からの主たる展望対象となる地域でもある。また、交通の要衝となっており、水族館や博物館などの展示施設や宿泊施設等が集中している。

南伊勢町

五ヶ所湾、贄湾、神前湾等のリアス海岸と荒々しい海食崖を中心とする海岸線を有する地域である。

志摩市

英虞湾や的矢湾の繊細かつ優美なリアス海岸から成り、横山から展望される一帯の地域である。

出典：伊勢志摩国立公園管理計画書　管理計画区　区分方針より

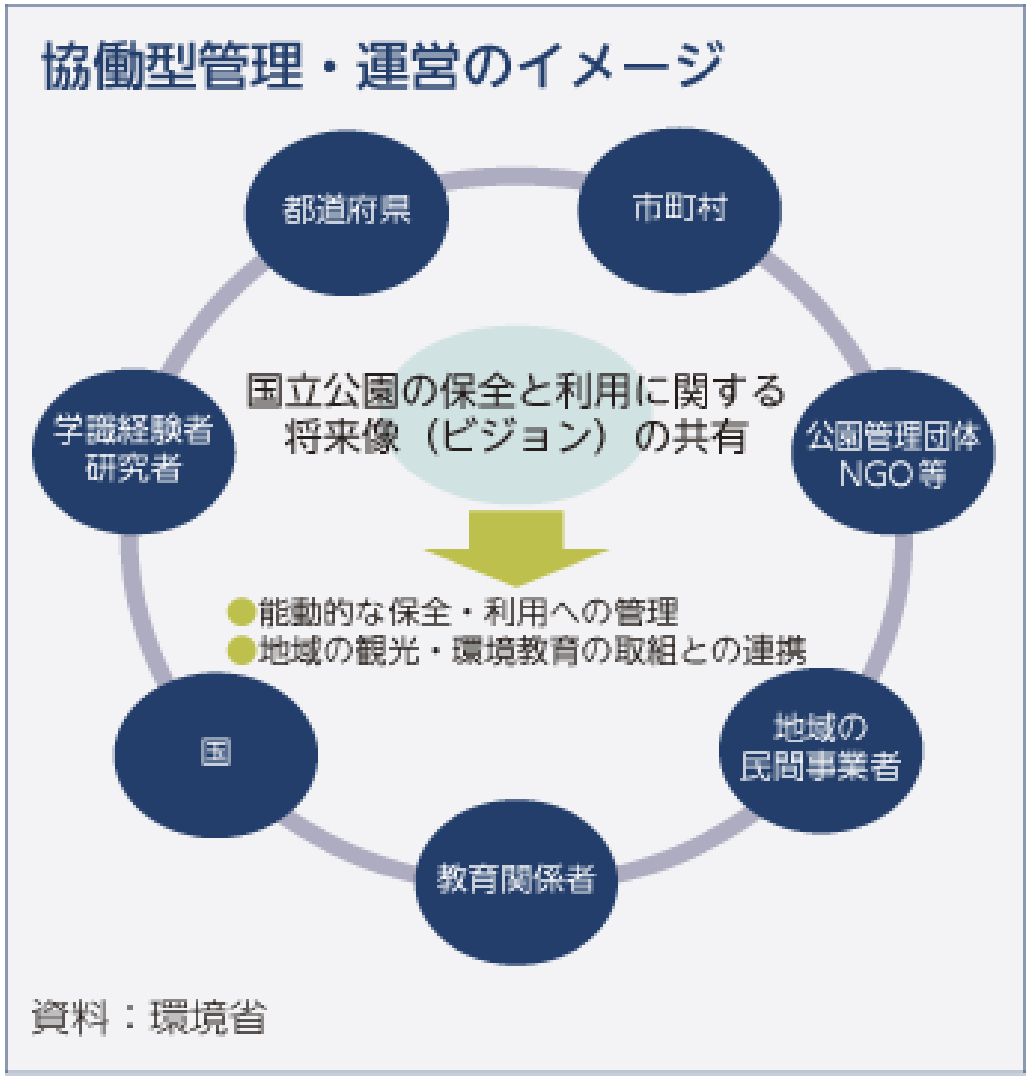
写真出典：（C）伊勢志摩観光コンベンション機構

伊勢志摩国立公園
地域協議会とは？

伊勢志摩国立公園地域協議会とは？

■目的

- 国立公園の**美しい自然を活かし、より上質な体験を提供する**ことにより、
- 世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく**国立公園満喫プロジェクト**を伊勢志摩国立公園において推進するための具体的な**プログラム（ステップアッププログラム）を策定**し、実施していくことを目的に、
- **関係機関の相互の連携を図る**ため、伊勢志摩国立公園地域協議会を設置する。



▲H25環境白書より

出典：伊勢志摩国立公園地域協議会設置要綱

伊勢志摩国立公園地域協議会とは？

◆特徴：地域の多様な主体による地域一体となったプロジェクトの推進

- 伊勢志摩国立公園は、私有地の割合が他の国立公園に比べて非常に高い（約96％）
- 多様な関係者がおり、様々な取組みを実行するためには相互連携とそれぞれの主体的な取組みが必要

■構成員（24団体）

- 行政関係者に加え民間事業者も構成員となっている
- 観光関係団体に加え、インバウンド利用者には交通が重要なため交通事業者が参加

■アドバイザー（19団体・個人）

- インバウンドを増やしていくためのキーパーソン。各分野の代表的団体・個人
- 各種取組みへの助言、協議会開催のセミナー（勉強会）講師等としても協力

★多くの関係者で協議会を構成し、丁寧に意思疎通を図ることで、プロジェクトを確実に進めていく。

★ステップアッププログラムの各者の取組の進捗状況を共有する場であり協議会を通じて、関係者同士の横のつながりを深め、さらなる連携強化を図っていく。

伊勢志摩国立公園地域協議会とは？

伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム２０２５概要

国立公園の魅力

悠久の歴史を刻む伊勢神宮
人々の営みと自然が織りなす里山里海

○自然の恩恵を深く理解し、自然と調和した営みの中で育まれた里山里海の景観が最大の魅力。

将来ビジョン

至る所に存在する人と自然の結び目に触れられる
人々が寄せては返す波のように訪れる国立公園

○国立公園の魅力である景観や利用環境が適切に守られている。
例えば→英虞湾や五ヶ所湾などの真珠養殖筏や海苔粗朶(そだ)、島嶼などの漁村集落、沿岸部で漁を行う海女の姿など地域に根差した人々の営みと自然が織りなす風景が維持されており、朝熊山などの山並みやリアス海岸などの海岸地形が遮られることなく眺望できる環境。
○利用者が必要とする情報や目的とする場所にストレスなくアクセスできる。
例えば→旅の目的地までの交通手段が確保されており、Web上や主要駅、ビジターセンター等の拠点施設において、目的地までのアクセス・利用情報が一元化されていて容易に入手することができる。
○様々な利用者が国立公園の魅力に触れることができる環境が整っている。
例えば→場の特性に応じたユニバーサルデザイン化が図られており、子どもから高齢者、障がいを持つ方、外国人など様々な利用者の多様なニーズに対応できる体験プログラムが整備されている。
○安心・安全・快適に滞在できる環境が整っている。
例えば→平常時や非常時を問わず全ての来訪者にとって安全・安心な空間が確保され、国立公園を楽しむことが出来る目的地として、新しい生活様式を踏まえた令和の旅のスタイルを導入している。

取組方針

- 上質な展望環境及び快適で安全な利用環境の整備
  →重点取組①、②、③
- 観光資源の磨き上げによるストーリー性を持った質の高い自然体験等の提供
  →重点取組⑤、⑥
- 人々の営みと自然が織りなす優れた景観の保全
  →重点取組④

2025目標

『国内外利用者の数をコロナ感染症前と同等レベルに回復、利用の満足度はそれ以上を目指す』

重点的な取組

取組①　ワーケーションの推進

◆テレワークの実施環境の整備や滞在者に提供する自然体験等のプログラムの企画や造成を行います。
◆テレワーク実施者等を受け入れる施設及び体験プログラム等において、コロナ感染症対策を徹底します。

ワーケーション

取組②　交通アクセス等の充実

◆主要利用拠点に至るまでの交通アクセス等の利便性向上を図るため、ＩＣＴを活用した交通サービス等の検索・予約・決済の一元化（MaaＳ）の構築を目指します。

二次交通の整備

取組③　拠点施設の機能強化

◆拠点施設において、職員の対応能力の強化、提供する自然体験プログラムの充実、情報発信機能の強化、国立公園利用に必要な物販、多言語対応の充実等の取組を行います。

施設機能強化

取組④　景観改善

◆展望地等において眺望を阻害している樹木の伐採、景観や利用環境を阻害している海岸ゴミの対策強化、海中のゴミ対策や藻場の保全などを推進します。

優れた景観保全

取組⑤　エコツーリズムの推進

◆伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会が主体となって、エコツーリズム全体構想を策定します。
◆プログラムのブラッシュアップ、おもてなしができる事業者の育成を図ります。
◆子どもから高齢者、障がいを持つ方、外国人など様々な利用者の多様なニーズに対応したユニバーサルデザイン環境の整備等受入体制の強化を図ります。

自然体験活動

取組⑥　国立公園への誘導・プロモーション

◆県内を含む中部圏・関西圏を主要なターゲットとしつつ、コロナ禍からの回復の段階に応じて首都圏や大都市圏も視野に入れ、関係機関が連携してプロモーションを実施します。
◆インターネット上のSNS、動画配信サービス等を効果的に活用した情報発信を行い、伊勢志摩国立公園への観光需要を喚起します。
◆国・地域ごとの新型コロナウイルス感染症の流行の収束を見極めながら、誘客可能となった国等から訪日外国人誘客のプロモーションを実施します。

国立公園のビジョン検討・作成について

国立公園のビジョン検討・作成の目的

■なぜ必要か？

- 国立公園の管理において、新たな課題への能動的な対応、国立公園としての資質や魅力の保全、利用者のニーズの変化を踏まえ地域振興に配慮した適切な利用の推進、地域の観光や土地利用に関する計画・施策との整合性を図るためには、多様な関係者との協働による管理運営が不可欠。
- 協働による管理運営には、国立公園の目指すべきビジョンを地域の皆様と検討し、共有していくことが必要。
- R4自然公園法改正に伴う要領見直しにより、国立公園の公園計画基本方針にビジョンを記載することとなった。

▲H25環境白書より

国立公園のビジョン検討・作成の目的

■伊勢志摩国立公園においてなぜ今検討しようとしているのか？

- 伊勢志摩国立公園地域協議会において「ステップアッププログラム2025」による取組を進めており、次期プログラム「SUP2030」への改定が間近である。
- 令和８年度には国立公園指定80周年を控えている。
- そのため、今、国立公園の目指すべきビジョンを地域の皆様と検討・共有し、「ステップアッププログラム2030」に実装することにより、今後の伊勢志摩公園における各種取組みを、地域の皆様と共通認識を持ち連携して進めていくことができる。
- また、このような機会を捉え、公園計画の変更も検討しており、共通のビジョンを実装する予定。

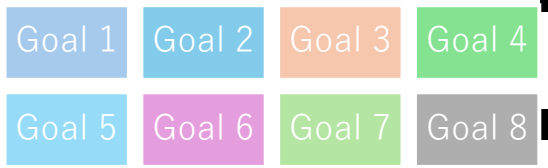
伊勢志摩国立公園ビジョン

National Parks of Japan

《伊勢志摩国立公園ビジョン》とは？

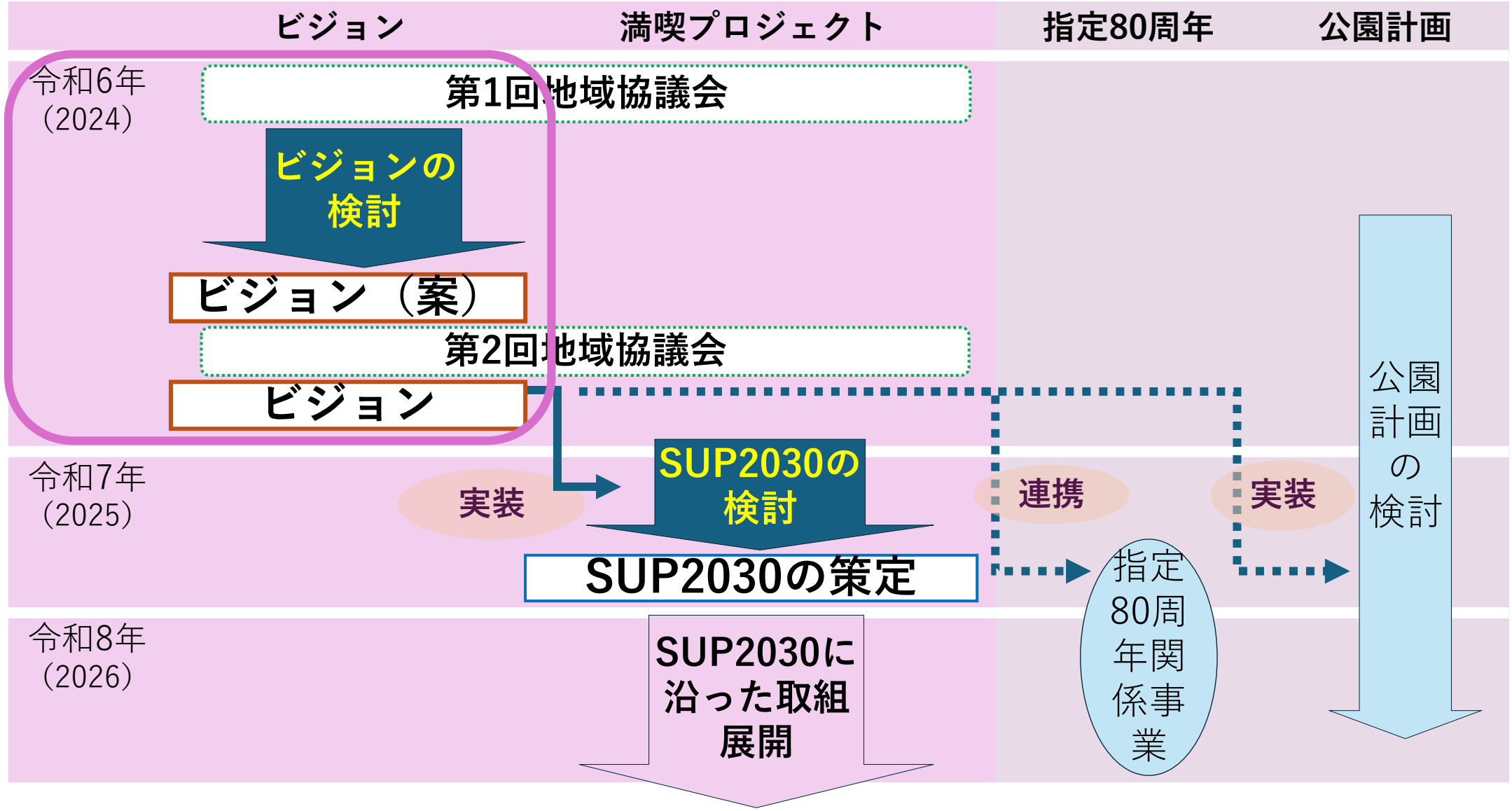
- 指定80周年を前に、90周年、100周年に向けて伊勢志摩国立公園の目指す姿を示す宣言のようなものを想定
- よりよい未来を築くため、これからの伊勢志摩国立公園が目指す姿をわかりやすくとりまとめたもの
- 伊勢志摩国立公園に関わる人の想いをとりまとめ、地域に浸透していくようなものにしたい
- 中長期的な視点に立ち、国立公園の望ましい姿、提供すべきサービス、公園の価値や保全・利用の目標を地域の人々にとってわかりやすく示したものを検討

イメージ



- ■ビジョンを単にキャッチフレーズとせず、達成するための目標として具体的な姿を付記することを想定
- ■これにより具体的行動につながり、達成状況のモニタリングが可能になる

ビジョン検討・作成とその後の流れ（案）



ビジョン検討・作成の流れ（案）

ビジョン

8月

第１回地域協議会

9月

①検討メンバー推薦・決定

②現状把握 関係者へのアンケート調査・分析

③現状把握 関連データ・既存計画等情報収集・分析

10月

11月

12月

④ワークショップによる検討
・4回開催を予定
・勉強会同時開催も予定

ビジョン（案）

1月

2月

第２回地域協議会

ビジョン

3月

①『「伊勢志摩の未来を考えて強い信念を持って取り組んでいる」「伊勢志摩の将来を担う」人』をKeywordに、構成員・アドバイザーから所属団体に限らず推薦していただく。推薦者10名程度+幹事会構成員からの若手メンバーを想定
※事務局で取りまとめ、決定は幹事会に一任いただく事を想定

②構成員・アドバイザーへ、現状認識や未来への展望、課題、貢献できること等を伺うアンケート調査を実施する。

③国立公園の価値や利用状況、社会情勢、既存計画等の情報収集・分析を実施する。

④各回、勉強会+ワークショップのセットを想定。
知る、論点整理、論点ごとの議論、まとめを想定

他地域のビジョン事例①

National Parks of Japan

●雲仙プラン１００基本理念

「つながる」

・自然と人、人と人、地域と地域が豊かな関係（つながり）を築き、美しく元気な郷土を未来の子どもたちへ伝える（つなげる）。

・国内外から人が訪れ（国内外からの来訪者と地域の魅力がつながり）、訪れた人も、住む人も、働く人も、みんなが満足度 100%で元気になれる（笑顔でつながる）地域を目指す。

としました。

●基本理念を実現するための将来像とそのための戦略

将来像

基本理念「つながる」

島原半島

＊暮らしの魅力に溢れた美しく豊かな島原半島
＊地域産業の活性化した島原半島
＊交流、体験、学習の場となる島原半島
＊半島の魅力をめぐり長期滞在を楽しめる島原半島
＊多くの交流人口を迎え地域経済が盛り上がる島原半島

互いの特徴・強みを活かし、
互いに際だたせる関係を築き、
一体となって地域を元気に！

雲仙地域

【国立公園】
●自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ国立公園
●島原半島全体の地域振興に活用される国立公園
●島原半島全体で保全再生に取り組む国立公園
＊地域から求められ支えられ誇りとなる
「滞在型国立公園」

【国立公園内の利用拠点】
＊自然と人、人と人、地域と地域をつなぐ絆となる

【雲仙温泉】
●国立公園ならではのアクティビティーが充実した雲仙温泉
●島原半島の魅力を紹介し、周遊・滞在へと誘う雲仙温泉
●人と地球に優しく、まちと人が輝く「忘れられない」雲仙温泉
＊ゆっくり癒される長期滞在型、国際観光地。
「雲の上のトレッキングスパリゾート」

将来像実現のための戦略

戦略１ 島原半島が一体となった取り組みの強化

戦略２ 雲仙地域の自然資源の保全・再生・継承

戦略３ 人と地球にやさしい、安全・安心な国立公園・観光地の実現

戦略４ 地域の恵みを活かしたゆっくり癒され楽しめる滞在型国立公園・観光地の実現

戦略５ 持続可能な推進体制の構築

戦略１　島原半島が一体となった取り組みの強化

島原半島が一体となって交流や相互理解を促進するとともに、相互の特性を活かし、自然や地場産業を活用した交流・体験プログラムを実施し、島原半島全体の交流人口を増やすために、最大限雲仙地域が出来ることに取り組む。

- 1−1 相互理解の促進
  - あるもの探しの実施
  - 半島フェノロジーカレンダーの作成・活用／島原半島写真コンテストの継続・情報共有／子ども向けあるもの探しや半島を知る教育教材づくり、アクティビティーやイベントへの活用
- 1−2 連携による地場産業の 活性化
  - 自然・地場産業等を活かしたエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進
  - 地域の特性を活かした地産地消の促進
- 1−3 半島を楽しむしかけづくり
  - ＜再掲＞自然・地場産業等を活かしたエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進
  - 半島周遊コースづくり
  - ツアーデスクの設置、一元的情報発信
  - 火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用
  - 半島が一体となったイベント
  - 半島アクセス網の強化：乗り継ぎ情報の発信、交通ダイヤの調整、乗り継ぎ情報のアナウンス、交通機関内の観光案内／シーニックポイントやシーニックルートのサイン整備／九州自然歩道のブラッシュアップ／地域内交通の充実
- 1−4 半島資源の保全・継承
  - ＜再掲＞自然・地場産業等を活かしたエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、ジオツーリズム等の推進
  - ＜再掲＞火山との共生の学習や防災学習の推進、修学旅行への活用
  - 半島全体クリーンアップ作戦／間伐促進や森の健全化、耕作放棄地や棚田の手入れ・修復への協力／＜再掲＞子ども向けあるもの探しや半島を知る教育教材づくり、アクティビティーやイベントへの活用
- 1−5 半島が一体となったマーケティング、ブランディング、戦略的情報発信
  - 半島が一体となったマーケティング
  - 半島が一体となったブランディング
  - 半島が一体となった地域外への戦略的情報発・PR

他地域のビジョン事例②

National Parks of Japan

《大雪山国立公園ビジョン》

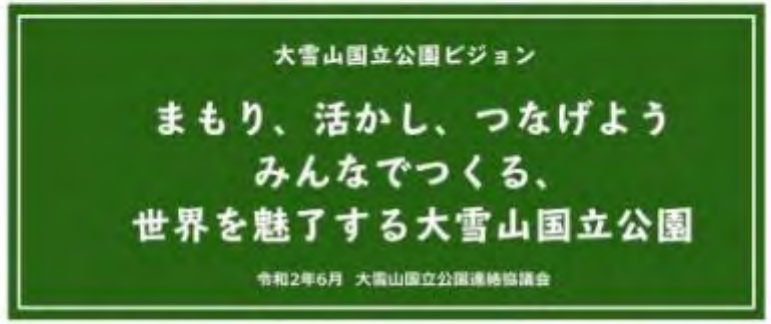
まもり、活かし、つなげよう　みんなでつくる、
世界を魅了する大雪山国立公園

■大雪山国立公園の目指す姿

①大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園
②魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園
③つながっていく国立公園
④みんなが協働して管理運営する国立公園

■ビジョンを実現するための取組例（一部抜粋）

- 大雪山グレードに応じた歩道の補修等維持管理の促進（植生の回復、地形・土壌の浸食防止）
- 外国人利用者対応の充実
- 一元的な情報発信
- 国立公園内外の連携やプロモーションの促進
- ビジターセンター等の国立公園の拠点施設における学びの支援



他地域のビジョン事例③

National Parks of Japan

《磐梯朝日国立公園　磐梯吾妻・猪苗代地域のありたい未来（ビジョン）》

- **いつでも　心揺さぶる自然がある**
- **誰でも　心躍る体験がある**
- **何度でも　心惹かれる歴史・文化が待っている**

これからも誰もが自分らしくいられるそんな地域でありたい。

■基本方針

①地域の最大の魅力である自然環境・景観の保護及び歴史・文化の継承

②国立公園の適正な利用促進による地域社会・地域経済への貢献

③磐梯吾妻・猪苗代の三地域をつなぐ広域ネットワークの形成

④磐梯朝日国立公園を核としたサステナブル・ツーリズムの展開

⑤ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた段階的・複層的な取組展開

⑥この地域にしかない上質な体験の提供